



外国語学部開設!! 躍動するキャンパス

平成元年四月より外国語学部（英米）が開設され、以来、また外国語学部設置に伴な
 語学科・入学定員一五〇名、中国語学科の開設により新たに三十余名の先生方が就任され、
 科・入学定員五〇名）が設置され、昭和三十三年四月、経済学部の単科大学として開学以来、
 和三十三年四月、経済学部の単科大学として開学以来、念願であった複学部体制がようやく実現するに至った。
 外国語学部の新設により特筆すべきことは女子学生が増えたことであり、今年も外国語学部入学者の半数以上が女子学生となっており、学内の雰囲気も一段と明るく華やいだものとなっている。
 外国語学部の目標としているのは、ただ単に、英語・中国語等の語学のエキスパートを育成するだけでなく、語学を手段として、幅広い教養、国際感覚を身につけ、国際舞台で活躍できる人材の育成を旨としている。また新学部の発足にあたり、大学をより社会に開かれたものにしよとの理念により、社会人入試、帰国子女入試、外国人留学生入試等も行ない積極的に受入れる体制も整備されつつある。複学部体制になったことにより更に発展させるため経済学部の改組等も検討され、その実現に向けての準備作業も着実に進行しつつある。

大学事務部長からのメッセージ

大学事務部長 中谷 隆一

NGU同窓生に大学にいるもの（教職員）が直接的に話ができる感覚を実感できるのは嬉しい。さて、大学の近況報告といえば、まず、1989年4月に外国語学部が設置されたこと。教員も大幅に増え、建物も白亜のイメージから緑に映えるレンガのキャンパスに様変わりした。女子学生が毎年1000人単位で増えてきている。NGUは今、新しいイメージを形成しつつある。思えば、経済学部だけの期間があまりにも長すぎたが、大学の歴史が作られてゆくとはこの様なものなのだろう。

「すべてのわざには時がある」といつかの大学同窓会の卒業記念の陶板に記されてあったのを思い出す。新しい摸索を試みながら、今また、商学部の設置が進められつつある。

